古書肆南陽堂主人柳川昇爾の近代金沢書肆研究

On Memorandoms Left by Yanagawa Shoji, Owner of the Nanyoudo Antiqurian Bookshop in the modern Era of Kanazawa

高橋明彦
TAKAHASHI Akihiko

金沢の古書肆南陽堂の主人柳川昇爾（やながわしょうじ）は知る人ぞ知る一人物であったが、いまではそれも忘れられかけているようである。私自身金沢に赴任してすぐに南陽堂に二度ほど足を運んだきりであり、既にその時は息子さんの代になっておられたので、実は何かを知っているわけでもない。

柳川氏の死去に際して北国新聞（一九八三年十一月二四日付け）は、旧制四高から東大文学部へ進んだ作家の高橋治氏による長文の追悼文を載せている。高橋氏は学生時代もその後も世話になった柳川氏を「古書の鬼」と評し、哀切を以ってその死を悼んでいる。曰く、「古書の鬼であったあなたよ、私はどれだけあなたにものを教えられたか、今、しみじみと思い返しています。（中略）おそらく、この世にあなた自身の手になる著書は残されなかったのでしょう。しかし、貴重な資料集のいくつかに、あなたの名は資料提供者柳川昇爾と刻まれています。それらの小さな活字を見る時、金沢の一角に名物の古書店主として生きぬいた、あなたの生涯に、いかにもふさわしいと思うのです。」、「鬼と書いたが、ある道を行く時、その人間の存在だけはどうしても避けて通れない、そうした人間が鬼なのだと思う。」

高橋治氏は堀麦水の卒業論文を書いた時に蔵月明氏を紹介されたエピソードや、作家となってからも様々な資料を提供してもらったことなどを紹介している。柳川氏はしかし単に古書に詳しい好々爺ではなかった。「狷介というべきか、偏屈というべきか、独自の世界に生きていただけに、厳しい評価の眼は金輪際、崩さなかった」。それもまた鬼たる所以であろう。

この追悼文には柳川氏の略歴も附されている。氏は一九八三年一〇月一〇日、脳疾患のため金沢市尾張町一丁目ノ七の自宅で亡くなられた。享年七四歳。富山県婦中町に生まれ、小学校卒業後に本屋に奉公に出て後に独立。「市内の名物古書店主として知られ、四高生、金大生の面倒を見た人。著名な作家や学者も利用し学都の金沢を市井から盛り上げた人物の一人だった。」と記事にはある。

柳川氏には「藩政時代の金沢の書林」と題する二回に渡るエッセイもあり（『書誌学月報』八・九所載、一九八一・一九八二年）、近世期の金沢の書肆について網羅的に言及している。ただし今日その研究の先端を行く竹松幸香氏はこれを「論拠となる出版物の所在や史料について、はっきり記されておらず、実証的研究とは言い難い。」と評し、なかなか手厳しい（竹松「近世金沢の出版」『地方紙研究』二六九、一九九七年）。たしかに、知っていること知り得たことを縷々連ねただけのエッセイだと言えば言える。市井の言は、そもそも実証的志向を持っておらず、その時はただ知見を述べたにすぎないだろう。が、時を経て後にはそれ自身が証ともなる。すなわち証言とはそのようにして発生していくものである。

本稿が紹介する資料は、柳川氏による近代の金沢の出版書肆研究

［キーワード］柳川昇爾　高橋治

のために作成した一覧表のようなものである。小さなペン書きのそれをここで翻字した。制作年代の記載は一切無いが、藩政期金沢の出版書肆研究の後に近代へと進んだのではないだろうか。金沢および石川県内・高岡まで含むいわゆる旧加賀藩領内の、近代の出版書肆や本屋さんのリストである（近世や近代初期において、出版社と新刊小売書店と古本屋との区別は本質的に無い）。ここでもやはり論拠はさほど明示されていないが、それでも私に当時の版本を見直す等をしてすこしばかりではあるが論拠を補足してみた。

先に見た高橋治氏の追悼文には、四高の寮歌が歌う「名もなき道を往く勿れ」というエリート意識を、思い上がりも甚だしいと切って捨てた上で、次のように結びんでいる。「家業を継ぐという南陽堂の末子よ、名もなき道を堂々と行け。そして父の如き鬼となれ。再び、合掌。古書の鬼に。」

このたびは、その息子さまもお亡くなりになり、南陽堂も店を正式にたたまれると聞く。本資料は先代からの遺品の一つである。縁有って私がこれを紹介することとなった。息子さまのご冥福をお祈りします。

【凡例】

資料名は、「江戸中頃以降／金澤に於ける書林展開表　稿」と仮に定めることにする。六枚の用紙と一枚の包み紙から成る資料である。用紙ごとに1～7の番号を附した。

文字については、なるべく底本通りの文字の再現につとめた。すなわち、仮名漢字の配分、新旧漢字・仮名は底本のままである。記号類（まるかっこ、かぎかっこ、〇、?、→など）はそのまま再現した。二重かぎ括弧は底本には使われていない。そこで、書名を明示すべく『　』を私に補った。ミセケチや訂正箇所は、単なる誤記の訂正が多いと思われるので、訂正された文字のみを翻字した。論述の都合で、①～⑬、および1～78の番号を私に振った。文頭に＊を於て、私が補足的に注釈を附す際の記号とした。

表組み形式になっているが、表をそのまま再現することはスペース的に難しいので、意味的な配置を考慮して、並べ替えた。同様に、改行はほぼ底本通り、底本のママというわけではなく、筆者の意図を付度して、必要と思われる改行を再現した。

＊本紙には、鉛筆書きで縦軸に数字（５９０～６００）、横軸に村の名前（東般若村、油田村など富山県砺波の旧村）を記してあり、何かの図表を作成しようとしたのであろうが、これは途絶し、書肆の一覧表に転用したものである。

【本文】

1　包み紙

南陽堂編

江戸中期以降

金澤に於ける書林展開表　原稿

柳川　昇爾

＊近代和紙、四六・五×三三・五糎、中央鉛筆書き。自筆か後補か不明。

2

南陽堂編

江戸中頃以降

金澤に於ける書林展開表　稿

柳川

＊薄手のボール紙、粗悪な酸性紙、五九・五×三七・八糎。以下同

じ用紙。文字はマジックインキ。自筆であろう。

3

郷土出版年表並書林系譜

明治五年

明治六年

2月

石川県学校蔵版

①『官許　詔令集』

売弘所

金澤

上堤町中村喜平

安江町近田太平

南町山田耕吉

三月

石川県学校版

②『智環啓蒙和解』

広瀬渡

長田知儀　訳述

加藤良孝　模画

藤田維正　序

七月

大坪学人輯

③『官許 漢語類苑大成』刊

梅華堂刊「飯山発兌」の印有り

藤田維正序

発行書肆として

他県と共に

金澤として

吉本次郎兵衛

上堤町中村喜平（発兌）

とあり

梅華堂とは中村喜平？

明治七年

5月

武藤元信著

④『近世三字経』刊

文苑書房蔵

発行書肆　西町　平岡平

下堤町　浅野宇佐松

明治九年

七月

直井菱舟編（ママ）

⑤「保家用文章」刊

出版人御徒町　田中重信

観音町　桜井余三平

弘通書肆として

（当地関係抜）

○発行所二書堂とあるは金澤前記二店の合版による

近田大平

中村喜平

近岡屋八郎右衛門

岡崎與平

石川敬義
浅野宇佐松
八田次郎治
中越久次
越田弥兵衛
当宇平
池善平
野島信吉
供田太七
山田耕吉
増山平助
松浦八兵衛
千羽伝三
八尾利右衛門
横枕清七
桜井保市
大聖寺
深城伊三郎
鍛冶安平
小松
高間源七
所口
松田喜作
越中富山
大橋甚吉
守川七郎
土井宇三郎
真田善次郎

河上章
中川甚蔵
稲垣六郎平
高岡
車平次郎
塩谷與右衛門
筆谷半助
水野佐七郎
小杉
増田伝七
福光町
波多庄右衛門
城畑大工町
畑庄平
井波
大谷次郎作

明治十年
一月
藤田維正
高橋富兄　共編
⑥「日本文法問答」刊
発行所　上堤町　中村喜平
南町野島信吉
安江町近田太平

明治十一年
六月

石川県第一師範学校編
⑦『書牘文例』全四冊刊
版主　益智館
発行書肆　中村喜平
近田太平

明治十二年
四月
岩田順三著
関口開閲
⑧「改正　新選数学解式」
中外堂蔵版
出版人　玄蕃町三巡二一
中吉忠平
発行書林
安江町　近田太平
上新町　鍵崎半三
広坂通　益智館
片町　〃支店

明治十三年
二月
永山近彰著
⑨『作文効驥』全三冊刊
版主　益智館
発行書肆　中村喜平
近田太平

明治十五年
十一月
高橋富兄
藤田維正　共編
⑩『国文軌範』上下刊
益智館　広坂通一
古香堂　安江町一〇　近田太平
三都取扱所あるも
地方売弘所なし

四月
藤田維正
⑪『修身指要』上中下？
益智館版
発行書林とあるも売弘店？
金澤
南町　池善平
野町　山口迪徳
上堤町　中越久二
横安江　近八郎右衛門
南町　野島信吉
上堤町　中村喜平
安江町　近田太平
片町　益智館支店
森下　供田太七
尾張町　春田徳太郎
〃　大谷喜兵衛
〃　山本久太郎

南町　石川敬儀

明治十六年
六月
陸軍文庫

⑫『翻刻　日本略史』
文花堂翻刻とあり
ホンコク出版人　上堤町十六　中越久二
とあり文花堂は其屋号？
金澤書籍店中

刊年不明

⑬『合書往来』
奥附なし
途中に明治十五年の刊記あるものあり
売弘所は活字刷なるに依り年度に多少のギモン有り
井波大谷氏が次郎作（理作）であるから十五年刊が正しきか？

金澤各書房

＊以下は、金澤以外で加賀・能登・越中の書肆を段にわけて、その変遷を記したように見える。段は、明治十四・十五・十六・十七年に対応したもの。ただし、十五年は⑪『修身指要』によっているというわけではないようである。複数の売弘書肆の一覧を並べたようである。
高さで、明治十四・十五・十六・十七年を区別する。

	十四	十五	十六	刊年不明
大聖寺				
1	深城伊三郎		深城伊三郎	大聖寺
2		金松伊三郎	金松伊三郎	小松　各書房
3		能登安平	能登安平	
小松				
4	別宮又四郎		別宮又四郎	
5			牧藤平	
6			任田甚右衛門	
7	堀成一		堀成一	
松任				
8	三谷吉郎		三谷吉郎	↓三谷
9			和田五平	
10	平次平		平次平	↓平治兵衛
津端				
11				庄村久左衛門
12			須貝元昭	↓須貝
のと子浦				
13			西尾五兵衛	↓西尾五
14			西尾吉兵衛	
〃	飯山			
15			長尾九右衛門	↓長尾
七尾				
16		真木喜右衛門	真木喜右衛門	↓真木嘉右衛門
17		春成	春成嘉右衛門	

18	酒井伊兵衛		35	土井宇三郎	
19	青木理平		36	真田善次郎	
のと皆月					
20	斯波六左衛門		37	高岡	
穴水					
21	阿良田六左衛門↓六右衛門		38	山崎吉平	
宇出津					
			39	国本	↑国本吉左右衛門↓
22	河尻欣松	↓		藤田原三郎	
飯田					
			40		車平次郎 ↓
23	河内長	河内長九郎 ↓			
			41	水野	水野義三郎 ↓
24	輪島	石堂又兵衛			
			42	塩谷	塩谷與右衛門 ↓
25	卯木文作				
			43		北野半七
26	久保庄三郎	久保庄三郎 ↓			
			44		盈田兵助
27	白藤幸吉				
			45		蓮池伝右衛門
			46	福光	波多庄右衛文 ↓波多庄右衛門
			47		永田文次 ↓永田
28	渡辺喜三郎				
羽咋			48	清水	清水 ↑清水清右衛門 ↓
			49	井波	大谷次郎作 ～大谷理作 ↓大谷次郎作
29	大念寺新				
29	米林五七		50	城端	藤井藤右衛門
30	田鶴浜	佐々木喜平	51		畑庄平
			52		森田善右衛門
越中富山			53		内木林文造
31		中川甚蔵 富山各書房	54	小竹	↑小竹彦右衛門 ↓小竹
32		川上章	55	福野	
33		大橋甚吾			長谷川喜一郎 ↓長谷川
34		守川吉平			

氷見
56　守田磯治　□田半平
57　□田玄応
58　放生津　大石直助　↓大石
59　宮林　↑宮林善次郎　↓宮林
60　宝田長五郎
泊
61　金森周作
62　魚津　小沢與右衛門
63　林就道
64　宮田清左衛門
今石動
65　上野常義　上野常義
66　新井　↓新井四郎
67　桜田甚作
68　桜田與作
69　遠藤重次
戸出
70　中条圓助
杉木出町
71　小杉久次郎　↓　小杉久次郎
八尾
72　広島孫平
中田町
73　朝日九右衛門　朝日九
境
74　岡正軌
小杉
75　増田伝七
76　石川済美
伏木
77　鷲山善吉
78　蜂谷徳平
4

＊本紙は、横軸に書肆名を列記し、縦軸には明治1年～昭和32年までの年を振る（5ミリの一マスが一年）。書肆名はペン書き。近世期から営業していた書肆を右に配し、あとはおおむね五十音順に左へ並べて行ったようである。赤鉛筆で、その書肆の活躍時期に応じて年の目盛りに線を引いている。所々に赤丸が附くのは、その年にその書肆の出版物があるという意味であろう。鉛筆で様々にメモを記す。

ペン書きされている書肆名および江戸期の元号は、そのまま翻字した。

赤鉛筆の部分は、赤丸を記した年記を記し、その前後に線があれば―で示した。

鉛筆書きは（　）に括った。

書林展開表
明治以降

寛政4？―　松浦善助　―明治7―明治10
天保9？―　松浦八兵衛　―明治7―明治10―明治12

天保2？―　石川勘綱　―明治12―明治15（石川敬義）―昭和6
嘉永3？―　八尾屋喜平　明治7―明治11
（八尾八兵衛）
安政3？―　近田大兵衛（古香堂）　―明治12―明治45
安政3？―　近八郎右衛門　―――
嘉永頃？―　八田屋次郎兵衛　明治7―明治10　八田次郎次
文久1―　池善平　―――昭和19金沢市街図出版―
天保？―　供田太七　―――（明治8田中信重）―――
文化7　臥龍書房　―明治8
文化頃　桜井與三兵衛　―明治12（明治8頃與兵衛とあり、明治10與三平と有り）
安政年間　梅花堂　―
浅加菊太郎　明倫堂
浅野宇佐松　（下堤町）　明治8―明治12―明治19
石井久平　―――明治22―
石井久太郎　明治21―大正14―――
石井伝次　木倉町六六　開進堂　創大正三年　大正3　昭和1
石田真吾　風琴楼　（明10年前後）
イロヤ書房（玉村断　同業　広坂通75　昭和6組織変更合名　昭和36 6月廃業転出 二代）
イロヤ支店（後イロヤ支店）
いろや書店
宇都宮書店（創業明治12とあるも小松町）明治12―明治22　明治35―――
内田書店（内田善雄　広坂通59　後小立野）大正3
雲根堂　（牧野一平　尾張町五）　明治18―明治31
益智館　（余地新平新吾広坂通1）　―明治5―明治23
益智館支店（片町56の2）　明治12―
岡崎與平又與兵衛　明治9―大正4
大谷喜兵衛　（尾張町）明治12―明治14
鍵崎半三（東馬場）　明治6―明治18
中宮誠之　鶴山堂　―明治7―
北村永太郎　石浦町後野町二丁目　明治7―大正4
北村嘉平次　―明治38　大正13
敬文堂　細川
紺藤次三郎　明治32
越田弥兵衛又弥平　明治8―明治12
広文堂　広坂通三七　橋信吉　創大正7　大正7―
田中與三郎　大正4
広文堂　（南町三）　明治22
小谷書店　小谷孫次　創大正八　大正8―――
桜井保平又保市　明治8―明治13
佐々木　（梅光亭）　―明治9―
三誠堂　（広坂通40　昭和6組織変更KK）昭和6
三友館　明治14
城森文二（二又文）　明治8―明治9
尚古堂 広坂通一五四 坂尻市大郎 創明治四二年
明治42―昭和20
炭谷長平　（中石引町37）
土生屋吉兵衛　翠軒　―明治22―
菁々堂　明治22―
千羽伝三　明治8―明治12（明治26・8月加賀金沢細見図刊　彦三一番町廿五）
叢文堂　尾張町5　明治17―

田中善兵衛　明治6―明治8
棚田書店　（南町）　明治22―
田中重信　明治8―明治22
知新堂（中村喜平？）　明治7―明治16（支店あり）
当卯平又当利卯平　明治8―明治22
成谷大平　明治8
中村喜平　明治6―明治22
中越久二　明治8―明治22
野島信吉　明治6―明治22
二書堂（横野　石井？）
川後房

能登
嘉永7頃
文化頃

近広堂與作　近岡屋
有文堂　（博労町　竹内氏）―明治175
春田徳太郎　篤次　明治12―昭和17
平岡平　―明治7―
瀬川桂　文化堂　（創）大正11
北伐堂（観音町一丁目）　―明治22―
北溟社（加越能新聞附録　石井一蛙　……）―明治17―
北溟堂（御歩町四番丁八）―明治35―
北溟社（森川清五郎南町44）―明治22―
馬瀬薫篤　―明治8―
増山平助（片町65）　明治7―明治22―
前川喜兵衛　―明治19―
松栄竹次郎（新町新□□）　―明治22―
杉本清七　―明治22―
村田則重（鍛冶町）　―明治6―

森井愛之助　紀陽館　創明治25又28年
（尾張町）明治25――
森隆文堂（広坂通）――大正4―
山田信景（橋場町廿四）明治11―明治33
山田耕吉（南町）　明治6―明治9
山口迪徳（野町）　明治15―明治22
八尾與三平（與三兵衛）　明治8―明治9
山本久太郎　（尾張町9）　―明治15―
有声館（石浦町23合資K）　―明治41―大正4―
（有文堂　博労町　竹田　印刷）　明治17　明治38
横枕清七（材木町7）　―明治8――
吉本次郎兵衛（悠久堂　二五死62）明治4―明治25
吉倉佐太郎　明治8
米沢喜六（森下町　後石鹸・茶商として現在に至る
創業明3又8、9年）明治3―
米林五七　明治8
龍文堂　明治32
二葉屋（梶村修一？石浦町）
東邦産業（森岡武吉　昭20年頃二葉屋書店を引次ぎ
其後北国新聞社にゆづり現北国書林となる）昭和12
―昭和20（後東邦産業又書店と改組織変更森岡武吉
経営）組屋徳右衛門（元治2年石黒千尋等の養蚕に
関する書三種発行す）
本谷清七　―明治12―
武藤信吉　―明治12―
富学堂

古本　森

6　罫線のみ
7　罫線のみ

【補説】

以下で、少しばかり考証に供するために、柳川氏が参看した書籍を私も実地に見て、その論拠を示すこととした。簡略ながら、それぞれの書籍の書誌特に刊記や版元・売り弘め一覧などを示す。このことによって分るように、柳川氏の調査の殆どは、近代の金沢地方版の書籍に記された売り弘め一覧から書肆の名を拾っているのがわかる。稚拙な調査だと評すことも不可能ではないが、こうして多量のデータとして並べた時、量は質的な変化を生み出す。つまり、かなりはっきりと金沢、石川、富山近辺の近代初期の本屋の顔ぶれがわかるようになってくる。注文を付けるとすれば、氏の調査の範囲が旧加賀藩領に限られており、むしろ福井県や富山市あるいはその外部にも調査範囲を拡げることを厭うべきでなかった、というべき点であろうか。近代の出版は、旧来の地元意識を超えるところに意味があるからである。

以下の書誌情報は、本文での①～⑬に対応している。

①『官許　詔令集』架蔵
半紙本一冊、黒色地網目文様の艶出し表紙
見返「明治六年二月上梓／官許　詔令集／石川縣學校蔵版［印］」（飾り枠、無界。地色?、魁星印）
刊記「賣弘所　東京淺草茅町二町目　須原屋伊八／同　日本橋通二町目　小林新兵衛／西京寺町通御池下ル町　佐々木惣四郎／大阪心齋橋筋壹丁目　松村九兵衛／加賀国金澤上堤町　中村喜平／同　安江町　近田太平／同　南町　山田耕吉」（後表紙見返全面）
＊国会図書館近代ライブラリーの同書の図像は見返しに魁星印がなく蔵版印が異なるが、差異はそれだけで、おおむね同版と思われる。

②『智環啓蒙和解』石川県立図書館 K0937／10
上中下三巻一冊
見返「明治六年三月上梓／廣瀬渡　長田知儀　譯述　加藤良孝模畫／智環啓蒙和解／官許　石川縣學校蔵版」（飾り枠無界、紅色地）
序「……／明治六年六月　藤田維正識」（序）、廣瀬渡・凡例、目次。
無刊記

③『官許　漢語類苑大成』刊　未見

④『近世三字経』刊　未見

⑤『保家用文章』石川県立図書館 K0981／7
中本一冊
見返「官許／直江菱舟著書／童蒙必携　保家用文章／明治九年十一月発兌　二書堂」（四周双辺有界三分）
刊記「明治九年七月廿六日版権免許／同年十一月刊成　定價貳拾錢／編輯者　加賀國第十三大區小二塩屋町　直江菱舟／出版人　加賀國第十四區小二區御歩町　田中重信／同國第十四區小二區観音町　櫻井余三平」（95丁オ全面）
「弘通書肆／東京　東生亀次郎／大阪　岡田茂兵衛／同　田中太右衛門／同　前川源七郎／同　三木佐助／同　中川勘助／同　中川藤四郎／同　田中幸助／同　中野慶藏／同　三宅善助／西京　田中治兵衛／同　川勝徳次郎／同　辻本九兵衛／同　竹岡文輔／越前福井　酒井安平／同　牧野源次郎／同　岡嵜佐喜助／同　椙平喜平／同　万司曽平／同　平［澤］閏助／同　佐々木仲順／同武生　千秋慎一／同　松井次郎兵衛／越中富山　大橋甚吉／同　守川七郎／同　土井宇三郎／同　真田善次郎／同　河上章」（95丁ウ全面）
「越中富山　中川甚藏／同　稲垣六郎平／同高岡　車平次郎／同　塩

谷與右衛門／同　筆谷半助／同　水野［佐七郎］／同小杉　増田傳七／同福光西丁　波多［庄右文］／同城端大工町　畑庄平／同井波　大谷次郎作／能登所口　松田喜作／加賀大聖寺　深城伊三郎／同　鍛冶安平／同小松　高間源七／同金澤　近田太平／同　中村喜平／同　近岡八郎右エ門／加賀金澤　岡嵜與平／同　石川敬義／同　淺野宇佐松／同　八田次郎治／同　中越久次／同　越田弥兵衛／同　當宇平／同池善平／同　野嶋信吉／同　供田太七／同　山田耕吉／同　増山平助／同　松浦八兵衛／同　千羽傳三／同　八尾利右エ門／同　横枕清七／同　櫻井保市」（後表紙見返、全面）

＊刊記の書肆連名は、先に翻刻した柳川氏のリストにぴたりと一致する。

⑥『日本文法問答』刊（県立図書館蔵・三部）

県立図書館本（K0981／3）旧縣人文庫「東宮殿下／御成婚記念／縣人文庫」（鳳凰飾りの丸印、見返）

半紙本、朽ち葉色無地表紙

外題「日本文法問答　藤田維正　高橋富兄　著　全」（四周双辺、左肩）

見返「藤田維正　高橋富兄　著／日本文法問答／明治十年三月鐫」（四周双辺有界三分、無地、魁星印）

内題「日本文法問答　藤田維正／高橋富兄　著」

刊記「明治十年一月十七日版権免許　出版人　石川縣第十大區小九區加賀国穴水町二番丁十七番屋敷　藤田維正［厚紀深盟］／同小八區松ケ枝町三番屋敷　高橋富兄［高橋］／（左半面は墨格）」（後表紙見返、四周単辺）

県立図書館本（K0981／3）請求番号は同じだが別本（久保氏旧蔵）

半紙本、朽ち葉色無地表紙、後印（全体的に摺りがあまい）

外題「日本文法問答　藤田維正　高橋富兄　著　全」（四周双辺、左肩）

見返「藤田維正　高橋富兄　著／日本文法問答／明治十年三月鐫」（四周双辺有界三分、無地）

内題「日本文法問答　藤田維正／高橋富兄　著」

刊記「明治十年一月十七日版権免許　出版人　石川縣第十大區小九區加賀国穴水町二番丁十七番屋敷　藤田維正［蘿月窟記］／同小八區松ケ枝町三番屋敷　高橋富兄［高橋］／發兌書肆　加賀金澤上堤町　中村喜平／同　南町　野島信吉／同　安江町　近田太平」（後表紙見返、四周単辺）

『日本文法問答後録』県立図書館本（K8／5河崎文庫）

半紙本、朽ち葉色無地表紙

見返「藤田維正　高橋富兄　著／日本文法問答後録／明治十八年二月鐫」（四周双辺有界三分、無地）

内題「日本文法問答後録　藤田維正／高橋富兄　著」

刊記「明治十八年二月二日版権免許／同年二月出版／編輯人　石川縣士族　藤田維正［蘿月窟記］石川縣加賀国金沢區穴水町二番丁十七番地／同　同　高橋富兄［印］同縣同國同區松ケ枝町三番地／同出版人　同　大村光儀　同縣同國同區馬場一番丁四十番地／發兌書肆　同縣同區安江町　近田太三郎／同縣同區片町　益智館」（四周双辺、後表紙見返し）

⑦『書牘文例』全四冊刊（県立図書館蔵・六部あるも未見）

⑧『改正　新選数学解式』

県立図書館本（K0941／39）架蔵本も全くの同版、同装丁である。

横本一冊、緑色地松葉艶出し表紙

外題「岩田順三著／改正新撰數學解式　全」（題簽、四周双辺、左肩）

見返「關口開閲／岩田順三著／改正新撰／數學解式／加賀金澤／中外堂蔵版［益智館蔵版］」（飾り枠、無界、黄蘗地）

内題「改正増補 新撰数学解式巻上之部 衍象同舎 岩田順三 著」
刊記「明治十二年四月三十日版權免許／同年十一月發兌／著者 岩田順三 石川縣金沢區手木町九番屋敷／出版人 中吉忠平 同縣同區玄蕃町三巡二十一番屋敷／發行書林 金澤安江町 近田太平／同上新町 鍵嵜半三／同廣坂通 益智館／同 片町 同支店」（後表紙見返し全面、四周単辺）

⑨『作文効瓆』

同書は全三編から成り、第一編は明治十年九月十一日版権免許、同年十二月發兌、第二編と第三編はともに明治十三年二月二十日版権免許、同年三月發兌である。明治十二年二月と銘記しているゆえに、ここで扱うのは第二、第三編ということになる。

『作文効瓆 初編』（石川県立図書館 K0981／1／1）
半紙本一冊、朽ち葉色網目艶出表紙
外題「永山徳太郎著 作文效瓆 初篇」
見返「加藤恒閲 永山徳太郎著／作文效瓆 初篇／明治十年九月十一日版権免許 同年十二月發兌 石川縣學校用 益智館蔵版［益智館蔵版］」（四周双辺有界三分、黄蘗色地、魁星印）
序末「明治十年十一月 松崎加藤恒撰［藤原恒印］［彩心氏］」
内題「作文效瓆 永山徳太郎著」
刊記「明治十年九月十一日版権免許／同年十二月發兌／版主 加賀国金沢廣阪通四十二番屋敷 益智館／發行書肆 金沢上堤町 中村喜平／同 安江町 近田太平」（後表紙見返し全面）

『作文効瓆 初編』（石川県立図書館 K0981／1／1）請求番号は同じであるが、別本である。
半紙本一冊、黄蘗色松皮菱艶出表紙
外題「永山近彰著 作文效瓆 初篇」（「近彰」を入れ木する）
序末（前同）
見返「加藤恒閲 永山近彰著／作文效瓆 初篇／明治十年九月十一日版権免許 同年十二月發兌 石川縣學校用 益智館蔵版［益智館蔵版］」（四周双辺有界三分、黄蘗色地、魁星印）（「近彰」を入れ木する）
内題「作文效瓆 永山近彰著」（「近彰」を入れ木する）
刊記（前同）

『作文効瓆 二編』（石川県立図書館 K0981／1／2、3）

二編と三編については、題簽、見返、内題下のいずれも入れ木ではなく「永山近彰」と彫られてあり、「永山徳太郎」とする異版はないと思う。刊記も、二編・三編ともに同版である。
刊記「明治十三年二月二十日版権免許同年三月發兌／編者 永山近彰 石川縣金澤區淺野町廿九番邸／版主 益智館 同縣同區廣坂通一番地／發行書肆 金澤區上堤町 中村喜平／同區安江町 近田太平」（後表紙見返し全面、四周双辺）

⑩『国文軌範』上下刊

⑪『修身指要』

上中下三巻三冊
『修身指要』明治十五年版（石川県立図書館 K0937／8）
半紙本、上中下三巻合綴一冊
見返「藤田維正述／修身指要／版權免許 益智館蔵版［益智館蔵版］」（四周双辺有界三分、水浅黄色地。魁星印）
内題「修身指要巻之上（中、下） 加賀 藤田維正述」
合綴されているためか、刊記は巻下の後に一つ附されているのみ。
刊記「明治十四年六月八日版權免許／同十五年四月發兌／述者 藤田維正 石川縣金澤區穴水町二番丁十七番地／版主 益智館 石川縣

金澤區廣阪通一番地」国会本と同版と思われるが、「著者」「述者」のみ異なる「述」の字が入れ木であろう）
売弘「發行書林／越中　富山　大橋甚吾／同　高岡　水野義三郎／同　鹽谷與右衛門／同　魚津　林就道／同　今石動　新井四郎／同　小杉出町　小杉久次郎／同　福光　清水清右衛門／越中　井波　大谷次郎作／同　城端　小竹彦右衛門／同　泊　金森周作／同　新湊放生津　宮林善次郎／能登　七尾　真木喜右衛門／同　春成嘉右衛門／同　輪島久保庄三郎／（改丁）能登　輪島　卯木文作／同　白藤幸吉／同　飯田河内長九郎／同　羽咋　渡邊喜三郎／同　大念寺新　米林五七／同田鶴濱　佐々木善平／加賀　大聖寺　深城伊三郎／同　小松　別宮又四郎／加賀　小松　堀成一／同　松任　三谷吉郎／同　平次平／同　金澤森下町　供田太七／同　尾張町　春田徳太郎／同　大谷喜兵衛／同山本久太郎／同　南町　石川敬義／（上段はすべて墨格）／同　金澤南町　池善平／同　野町　山口迪徳／同　上堤町　中越久二／同　横安江町　近八郎右衛門／同　南町　野島信吉／同　上堤町　中村喜平／同　安江町　近田太平／同　片町　益智館支店」（四周双辺、上下分割、有界八行）
内容は同じであり、同版であろう。

『修身指要』明治十五年版（国会図書館近代ライブラリー）
上巻のみ一冊
刊記「明治十四年六月八日版權免許／同十五年四月發兌／著者　藤田維正　石川縣金澤區穴水町二番丁十七番地／版主　益智館　石川縣金澤區廣阪通一番地／［定價拾貳錢三厘］」
売弘「發行書林／越中　富山　大橋甚吾／同　高岡　水野義三郎／同鹽谷與右衛門／同　魚津　林就道／同　今石動　新井四郎／同　小杉出町　小杉久次郎／同　福光　清水清右衛門／越中　井波　大谷次郎作／同　城端　小竹彦右衛門／同　泊　金森周作／同　新湊放生津　宮林善次郎／能登　七尾　真木喜右衛門／同　春成嘉右衛門／同　輪島久保庄三郎／（改丁）能登　輪島　卯木文作／同　白藤幸吉／同　飯田河内長九郎／同　羽咋　渡邊喜三郎／同　大念寺新　米林五七／同田鶴濱　佐々木善平／加賀　大聖寺　深城伊三郎／同　小松　別宮又四郎／加賀　小松　堀成一／同　松任　三谷吉郎／同　平次平／同　金澤森下町　供田太七／同　尾張町　春田徳太郎／同　大谷喜兵衛／同山本久太郎／同　南町　石川敬義／（上段はすべて墨格）／同　金澤南町　池善平／同　野町　山口迪徳／同　上堤町　中越久二／同　横安江町　近八郎右衛門／同　南町　野島信吉／同　上堤町　中村喜平／同　安江町　近田太平／同　片町　益智館支店」（四周双辺、上下分割、有界八行）

『修身指要』明治十五年版（県立図書館 W3759／118／2）
半紙本、中巻のみ一冊
見返「藤田維正述／修身指要／版權免許　益智館蔵版［益智館蔵版］」（四周双辺有界三分、無地。魁星印）
内題「修身指要巻之中　加賀　藤田維正述」
刊記「明治十四年六月八日版権免許／同十五年四月發兌／述者　藤田維正　石川縣金澤區穴水町二番丁十七番地／版主　益智館　石川縣金澤區廣阪通一番地」国会本と同版と思われる。
売弘「發行書林／越中　富山　大橋甚吾／同　高岡　水野義三郎／同鹽谷與右衛門／同　魚津　林就道／同　今石動　新井四郎／同　小杉出町　小杉久次郎／同　福光　清水清右衛門／越中　井波　大谷次郎作／同　城端　小竹彦右衛門／同　泊　金森周作／同　新湊放生津　宮林善次郎／能登　七尾　真木喜右衛門／同　春成嘉右衛門／同　輪島久保庄三郎／（改丁）能登　輪島　卯木文作／同　白藤幸吉／同　飯田河内長九郎／同　羽咋　渡邊喜三郎／同　大念寺新　米林五七／同田鶴濱　佐々木善平／加賀　大聖寺　深城伊三郎／同　小松　別宮又四

郎／加賀　小松　堀成一／同　松任　三谷吉郎／同　平次平／同　金澤森下町　供田太七／同　尾張町　春田徳太郎／同　大谷喜兵衛／同山本久太郎／同　南町　石川敬義／越中　今石動　上野常造／同　高岡國本吉右衛門／同　八尾　廣島孫平／同　中田町　朝日九右衛門／同境　岡正軌／能登皆月　斯波六左衛門／加賀大聖寺　金松伊三郎／同能登安平／同　金澤南町　池善平／同　野町　山口迪徳／同　上堤町中越久二／同　横安江町　近八郎右衛門／同　南町　野島信吉／同上堤町　中村喜平／同　安江町　近田太平／同　片町　益智館支店」（四周双辺、上下分割、有界八行）

二丁目ウラ上段は墨格でなく文字が彫られている。その他は同じ。修訂版。

『修身指要』明治十六年再版（架蔵）

半紙本、巻上のみ一冊

見返「藤田維正述　再刻／修身指要／版權免許　益智館蔵版［益智館蔵版］」（四周双辺有界三分、水浅黄地魁星印）

刊記「明治十四年六月八日版權免許／同十六年十二月十一日再刻御届／述者　藤田維正　石川縣金澤區穴水甲二番丁十七番地／版主　益智館　石川縣金澤區廣坂通一番地」

売弘「發行書林／越中　富山　大橋甚吾／同　守川吉兵衛／同　土井宇三郎／同　真田善次郎／同　河上権蔵／同　高岡　水野義三郎／同鹽谷與右衛門／同　国本吉右衛門／同　魚津　林就道／同　今石動上野由太郎／越中　放生津　宮林善次郎／同　小杉出町　小杉久次郎／同　福光　清水清右衛門／同　井波　大谷次郎作／同　城端　小竹彦右衛門／同　八尾　明盛堂／同　中田町　朝日九右衛門／同　泊　保全堂／同　境　岡正軌／同　小杉　石川濟美／（改丁）能登　七尾　真木喜右衛門／同　春成嘉右衛門／同　輪島　卯木文作／同　白藤幸吉／同　柿本長平／同　高舘信隆／同　塵濱　渡邊喜三郎／同　大念寺新米林五七／同　中島　岡野幸助／同　中居　黒田一郎／同　小竹　木幡多四郎／能登　南黒丸　角谷時三郎／同田鶴濱　佐々木善平／同　皆月　斯波六左衛門／加賀　大聖寺　深城伊三郎／同　能登安平／同金松伊三郎／同　平出醒／同　小松　堀成一／同　別宮又四郎／同松任　三谷吉郎／同　平次平／（上段はすべて墨格）／金澤森下町供田太七／同　尾張町　春田徳太郎／同　南町　石川敬義／同　野町山口迪徳／同　上堤町　中越久二／同　横安江町　近八郎右衛門／同南町　野島信吉／同　上堤町　知新堂／同　安江町　近田太平／（一行アキ）／同　片町　益智館支店」（四周双辺、上下分割、有界十一行）

本書の出版の様相は複雑で、今は諸版があることを示すにとどめ、その精確な前後関係などは考えないでおく。

⑫『翻刻　日本略史』（石川県立図書館に多数あり）

『日本略史』（県立図書館 W2101/206、W2101/262/2）

半紙本、二巻二冊、共紙表紙

四周単辺無界一〇行、漢字片仮名文

内題「日本略史上（下）巻　木村正辭　編／那珂通高　訂」

刊記「明治九年五月翻刻　加賀金澤廣坂通四十二番屋敷　益智館／發行書肆　加賀金沢上堤町　中村喜平／同　安江町　近田太平」

『日本略史』小本、四巻四冊

（石川県立図書館 W210/10034/1）

巻一のみ一冊

黄蘗色地、万字繋ぎ艶出し表紙

外題「日本略史　反刻　一」（左肩、刷、双辺）

見返「反刻／明治六年刻／日本略史／陸軍文庫」（四周双辺有界三分、無地）

内題「日本略史巻之一　笠間益三編輯」

（石川県立図書館 T1K/2/9-1、K0921/15）

巻一および巻四、二冊（取り合わせ）

黄檗色地、万字繋ぎ艶出し表紙

外題「翻刻　日本略史（破れ）」（左肩、刷、双辺、巻1のみ存）

見返「陸軍文庫／日本略史／明治十五年六月　文花堂翻刻」（巻一のみ。四周双辺有界三分、水浅黄色地）

内題「日本略史巻之一（四）　笠間益三編輯」

刊記「明治十五年六月九日出版御届／同年六月廿日刻成／翻刻出版人　平民　中越久二　石川縣下金沢區上堤町拾六番地／越前武生　松井治郎平／同　千秋慎一／同　黒田善司／同　吉川進輔／同　吉川作二郎／同坂井港　土屋伊平／同　伊豆藏又三郎／同　坂口市平／越前福井　酒井安平／同　岡崎佐喜介／同　万司曽平／同　佐々木忠順／同　開知堂／同鯖江　竹村寛一／同　藤田徳三郎／同丸岡　山田作平／（改丁）加賀大聖寺　金松伊三郎／同　深城伊三郎／同　能登安平／同小松　別宮又四郎／同　牧藤平／同　任田甚右衛門／同　堀成一／同松任　三谷吉郎／同　和田五平／同　平治平／同金沢　益智館／同津端　須貝元昭／越中福光　波多庄右衛文／同　永田文次／同　清水清右衛門／同井波　大谷理作／同城端　小竹彦右衛門／同福野　長谷川喜一郎／同氷見　守田磯治／同　大石直助／同放生津　宮林善次郎／同泊　小沢與右衛門／同魚津　宮田清左衛門／同今石動　新井四郎」（本文最終丁オウ）

「能登子浦　西尾五兵衛／同　西尾吉兵衛／同飯山　長尾九右衛門／同七尾　春成嘉右衛門／同　酒井伊兵衛／同　真木喜右衛門／同　青木理平／同穴水　阿良田六左衛門／同牛出津　河尻欣松／同飯田　河内長九郎／同輪嶋　石堂又兵衛／同　久保庄三郎／越中高岡　國本吉左衛門／同　車平次郎／同　水野義三郎／同　塩谷與右衛門／同富山　中川甚藏／同　河上章／同　大橋甚吾／同　守川吉平／同　土井宇三郎／同　真田善次郎／金沢書籍商店中　上堤町　中越久二藏梓」（後表紙見返し全面）

（石川県立図書館　W210/10033/1　W210/10035/2-4）

四巻四冊

黄蘗色地、万字繋ぎ艶出し表紙

外題「翻刻　日本略史二（～四）」（左肩、刷、双辺、巻1は剥離）

見返「陸軍省藏版／日本略史／明治十五年九月　文彫堂翻刻」（巻一のみ。四周双辺有界三分、無地）

内題「日本略史巻之一（～四）　笠間益三編輯」

刊記「明治十五年九月廿六日翻刻御届／同年九月刻成／翻刻出版人　京都府平民　寺田熊次郎　下京区第五組梅屋町十三番戸／發賣人　大阪　松村九兵衛／中川甚助／花井卯助／小谷卯兵衛／吉岡平助／梅原亀七／真部武助／中野啓造／京都　村上勘兵衛／大谷仁兵衛／杉本甚助／川勝徳次郎／本城小兵衛／筑前福岡　連壁社／筑後久留米　赤司平治郎／肥後　長崎治郎」（後表紙見返し全面）

＊中越久二版に対して匡郭が三ミリほど小さく、覆刻かと思われる。

『日本略史字引』（石川県立図書館 K0921/16）

袖珍本、上下二巻一冊、黄蘗色地万字繋ぎの艶出し表紙

四周単辺有界七行

外題「石川敬義編輯／日本略史字引　全」（左肩、刷、双辺）

見返「明治十一年五月發兌／石川敬義輯／日本略史字引　全／金澤書肆　明教堂　顕才堂　合梓」（四周双辺有界三分、紅色地）

凡例「凡例／……／明治十一年五月　編者識」

内題「日本略史字引上（下）巻　石川敬義編輯」

刊記「明治十一年三月一日版権免許／明治十一年五月五日刻成／編

輯者　石川縣士族　石川敬義　第十大區小八區榮町新建三番地／出版人　石川縣下平民　増山平助　第十大區小十區蛤坂町八十八番地／弘通書肆」（最終丁ウ）
「東京　別所平七／大坂　中川勘助／同　三木美記／同　中野啓藏／西京　辻本九兵衛／金澤　山田耕吉／同　松浦八平／同　山田信景／同　越田弥平／同　櫻井保平／同　野島信吉／同　武藤信吉／同　中越久二／同　近八郎右衛門／金澤　近田太平／同　供田太七／同　八田次郎次／同　淺野宇佐松／同　大谷喜平／同　八尾理右衛門／同千羽傳二（ママ）／同　田中善平／同　本谷清七／同　田中重信／同櫻井與三平／同　岡嵜與平／同　當宇平／同　池善平／同　中村喜平」（後表紙見返し全面）

明教堂とは増山平助の堂号である（鈴木俊幸・全国書肆一覧による）。

⑬『合書往来』（石川県立図書館に一部、安政新版あり）

この他、書肆情報を載せるものを、気付いた範囲であげておく。

『改正点鼠問題集』金沢市立玉川図書館（村松文庫）
関口開著
中本、上下二冊
見返「關口開著述／改正 點鼠問題集 完／明治九年十一月版権免許臥龍書房版」（四周双辺有界三分、黄色地）
刊記「明治五年壬申年三月新刻／同十年丁丑年一月再刻／石川縣第十大區小七區金澤竪町　著述 関口開／同縣同區小一區観音町　出板主　春田徳太郎／同縣同區小二區森下町　同　米澤喜六」

『数学問題集附録』（金沢市立玉川図書館　村松文庫）
関口開著
中本、一冊
見返「関口開著／數學問題集附録 完／明治九年二月発行　石川縣學校用 出版會社藏梓」（四周単辺飾り枠、黄色地）
刊記「明治八年十二月三日版権免許／同九年二月十日発兌／著者關口開 加賀國第九區小一區竪町八十四番屋敷／版主 出版會社 同國同區廣坂通り新建四十二番屋敷／發行書肆 加賀金澤堤町 中村喜平／同 安江町 近田太平／同 南町 野嶋信吉」（後表紙見返）

『漢語便覧』（石川県立図書館 W8132／36）
横本一冊
「梅岳山人輯／漢語便覧／臥龍書房」（見返）
無刊記

『越中地誌略』（石川県立図書館 K293／12）
中本一冊
見返「石川縣第一師範學校検閲／三宅少太郎編輯　越中地史略／明治十二年一月発兌　石川縣學校用益智館藏梓［益智館藏梓］」（四周単辺有界三分、黄色地、魁星印あり）
序「……／明治十一年五月石川縣第一師範學校教諭永山平太撰」
内「越中地史略　三宅少太郎編輯」
刊記「明治十一年四月十三日版権免許／同十二年一月発兌／編輯三宅少太郎　石川縣金沢區片町六十二番地屋敷／版主　益智館　同縣同區廣坂通新建町二番屋敷／發行書林　金沢上堤町　中村喜平／同安江町　近田太平」（後表紙見返・全面）

『御文章』架蔵
中本

刊記「明治十九年一月九日御届仝年二月出版／仝廿五年十一月三十日再版／編輯者　石川縣金澤市高岡町三十八番地　淺野宇佐松／発行者　仝縣仝市南町三十八番地　當卯平／仝發賣　仝縣仝市森下町百五番地　供田太七／仝發賣　仝縣仝市南町三十五番地　池善平／印刷者　仝縣仝市越中町十四番地　太田文左衛門」

発売所「觀文堂發行／發賣所　能登七尾　春成嘉右衛門／同　北陸館／同　真木喜衛門／同羽咋　千田末松／同　若狭要太郎／同子浦　西尾五兵衛／同　西尾作太郎／同　児玉清知／同宇出津　川端菊太郎／同飯田　河内勇作／同富来　柏谷次作／大聖寺　深城伊三郎／同　谷作男／同　松山彌吉／小松　宇都宮源平／同　粽藤平／同　高崎書店／（改頁）發賣所　山守保太郎／松任　三谷吉郎／同　平次郎作／津端　池村甚平／越中富山　中田書店／同　大橋甚吉／同　守川吉兵衛／同　小林書店／高岡　學海堂／同　水野義三郎／同　車吉兵衛／福光　清水雄吉／同　片桐八助／戸出　中條圓助／越前福井　酒井安兵衛／同　渡邊他之助／同　本川留吉／中村六三郎／同武生　西村伊八／同勝山　瀧田喜太郎」（金属活字印刷）

『浄土三経往生文類』架蔵

中本一冊

刊記「明治十五年七月廿二日翻刻御届／同　十六年五月刻成発兌／纂輯人　京都府平民　西村九郎右衛門／反刻人　石川縣平民　近八郎右衛門　金澤区横安江町百九番地／賣？？　越中富山　守川吉兵衛／同高岡　塩谷与右衛門／同石動　後藤安右衛門／同福光　清水清右衛門／同　永田文治／能登子浦　西尾吉兵衛／越中井波　大谷理作／越前福井　万司曽平／加賀大聖寺　深城伊三郎／同小松　粽藤兵衛／同松任　三谷吉郎／同金石　赤土文七／同高松　佐々木儀右衛門／金澤上堤町　近八郎右衛門支店」（後表紙見返し全面）

『文章梯航』架蔵

半紙本、巻三のみ一冊

見返「藤田維正　武藤元信　鑑定　三宅少太郎　編輯［版権免許］／文章梯航／金澤　益智館　古香堂　同梓［印］」（四周双辺有界三分、水浅黄色地、「古香堂」の銘のある魁星印）

刊記「明治十五年七月六日版権免許／同十六年一月發兌／編輯者　三宅少太郎　石川縣金澤區蛤阪町百三番地／版主　益智館　同縣同區廣阪通一番地／版主　近田太平　同縣同區安江町十番地」

売弘「發行書林／越中富山　大橋甚吾／同　土井宇三郎／同　真田善次郎／同　高岡　水野義三郎／同　鹽谷與右衛門／同　國本吉右衛門／同　車平次郎／同　今石動　櫻町善右衛門／同　戸出　中條圓助／能登　中嶋　岡野幸助／同　富木　柏谷次作／同　田鶴濱　小林愚郎／同　佐々木善平／同　羽咋　渡邊喜三郎／同　大念寺新　山科伊三郎／同　米林五七／同　子浦　西村吉兵衛／同　飯山　長尾九右衛門／（改丁）同　［墨格］／同　杉木出町　小杉久次郎／同　井波　大谷理作／同　城端　畑庄平／同　福光　清水清右衛門／能登　飯田　河内長九郎／同　紅谷榮五郎／同　鵜川　原小平治／同　宇出津　布浦清右衛門／同　穴水　［墨格］／加賀　大聖寺　深城伊三郎／同　金松伊三郎／同　平出雉／同　能登安平／同　小松　酢谷久平／同　添村藤兵衛／同　松任　三谷吉郎／同　平治平／同　高松　佐々木儀右衛門／同金石　赤土文七／（改丁）加賀金澤　池善平／同　供田太七／同　富宇平〔當宇平〕／同　野島信吉／同　中越久二／同　石川敬義／同　八田次郎治／同　淺野宇佐松／同　岡崎與平／同　増山平介／同　春田德太郎／同　田中重信／同　大谷喜兵衛／同　山本久太郎／同　山田信景／同　千羽傳三／同　越田彌平／同　横安江町　近八郎右衛門／［墨格二行］」（四周双辺、上下二段、有界十行。全一丁半）

うつのみや社史『創業百年のあゆみ』の6頁に、北国新聞（明治26年

8月26日）の記事のうち「北国新聞大売捌所」と題する広告記事を載せている。同紙を販売する店舗名を住所とともに記した者である。今そのリストを転載する。

江沼郡大聖寺町　醒世舎
能美郡小松町　宇都宮源平
石川郡松任町　平酔香堂
同　美川町　松下好一
金澤市尾張町　雲根堂
同　南町　池善平
同　尾張町　森井書店
同　上石引町　北斗館
同　泉町　櫻井勝憲
石川郡一木村　北陸自由館
河北郡津幡町　須貝元昭
河北郡高松町　谷和三郎
同金津谷村字横山　梶谷榮助
羽咋郡富来村　栢谷次作
同　羽咋町　坂本兵次郎
同　高濱町　米林五七
鹿嶋郡七尾町　日新堂
同　同　北陸館
鳳至郡輪嶋町　白尾屋
同　宇出津町　川端菊太郎
越中石動町　櫻田甚作
越中石動町　北山伊兵衛

（たかはし・あきひこ　一般教育等／日本文学）
（二〇一三年一〇月三一日受理）